

# 1. 評価報告概要表

作成日平成20年 1月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1072100322
法人名	特定非営利活動法人 在宅福祉たらっぺ会
事業所名	グループホーム稲荷台ホーム
所在地	群馬県高崎市稲荷台1278-1 (電話) 027-373-0999

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年1月29日

## 【情報提供票より】(19年 12月 31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	18 人	常勤 3人, 非常勤 15人, 常勤換算	8.75人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費・通院介助・買物介助
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食 250 円
	夕食	250 円	おやつ 250 円

### (4) 利用者の概要(12月 31日現在)

利用者人数	8名	男性	4名	女性	4名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.4歳	最低	67歳	最高	89歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	木暮医院・ペインクリニック小笠原医院・本多歯科
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

16年程前に徘徊者等の介護に悩んでいる家族の負担を軽減することを目的としてボランティアの宅老所として発足し、その後平成12年グループホームを開設した。発足当初から「人間として尊厳が守られ、その人らしい暮らしを送れるよう」開設者をはじめ役職員の共通理念として日々の支援に取り組んでいる。養蚕農家を活用したホームは、一般家庭を思わせるたずまいのホームで、一部の居室が改造されているが、畳の部屋が襖で仕切られ、古い茶箆箆や桐ダンスを配置し、入居者が育った頃の雰囲気を感じさせている。一方、段差等の危険箇所もあるが、職員の見守りにより危険の回避に努め、毎日の生活場所をリハビリに活かしたケアに取り組んでいる。また、本人の希望を大切にし、要望等には早急な対応の支援を行い、医療面については終末期の入居者も受け入れ、24時間医師との連携体制を整えた支援をしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価結果の改善については、「屋内の段差の危険性については、日頃のミーティングで確認する」「申し送りを確実なものとするため、閲覧者は署名を行う」「緊急時や感染症の体制作りに関しては、対応方針に基づく勉強会を開催する」等その改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、管理者が記載している。評価のねらいや活用方法を全職員が理解し、評価を活かした改善に取り組まれるよう期待する。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を今年度3回開催し、事業所の現況報告等を行い、参加者からは日中や夜間の勤務体制に関する質問や行政に対する相談等が行われている。今後は、運営推進会議を2ヶ月毎に開催され、評価の取り組み状況等についても報告や話し合いをされるよう期待する。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>月に一度介護記録ノートのコピーを家族に渡し、その際に家族から要望や意見を聞いている。個人の買い物は立替金処理し、出納帳にレシートを添付し家族へ請求している。また、不満や苦情については、ホーム内に窓口を設け管理者が対応し、市や国民健康保健連合会の苦情・相談窓口の案内もしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>管理者は地域青年会に所属し、事業者は自治会に加入している。入居者は、地区のグランドゴルフに参加したり、地域のお祭りや市民運動会・小学校の運動会に招待を受け観戦している。また、地域の人達がボランティアとして訪れ、入居者とお茶を飲む等地域との交流を深めている。</p>

## 2. 評価報告書

(    部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	<b>○地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念「痴呆や身体機能障害を持っていても最後まで人間として尊厳が守られ、その人らしい暮らしを送れるよう支援する」の基に、入居者本位のその人らしい暮らしを支援している。	○	地域密着型サービスとしての理念について、管理者と職員で話し合い、理念の見直しがされることを期待する。
2	2	<b>○理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新規採用職員には理念を説明し、意識づけを行っている。徘徊・帰宅願望の強い入居者には、その人の為のローテーションを組む等日常生活の係わりの中で理念の実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	<b>○地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は地域青年会に所属し、事業所は自治会に加入し、市広報の配布等を受けている。入居者は、地域のお祭りやグランドゴルフに参加したり、市民運動会や小学校の運動会に招待を受けて観戦している。また、地域の人達がボランティアとして訪れ、入居者とお茶を飲む等地域との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<b>○評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の改善点は、「申し送りを確実なものとするため閲覧者は署名を行う」「緊急時や感染症の体制作りに関しては対応方針に基づく勉強会を開く」等改善に取り組んでいる。自己評価については、管理者が作成している。	○	評価のねらいや活用方法を全職員が理解され、自己評価に取り組まれることを期待する。
5	8	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を今年度3回開催し、事業所の現況報告等を行い、参加者からは日中や夜間の勤務体制に関する質問等が出されている。参加メンバーは、管理者、事務局、介護相談員、民生委員、家族、市町村職員で行われている。	○	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、評価の取り組み状況等についても報告や話し合いをされるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<b>○市町村との連携</b> 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の開催回数や食費の値下げ、光熱費の徴収等、日頃から市に問い合わせや確認を行っている。また、市の担当者に年金等に関する情報交換を行ったり、介護相談員との連携を緊密にとる等、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<b>○家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、来所の際に介護記録のコピーを家族に渡して、日頃の報告を行い、その際に要望や意見を聞いている。個人の買い物は、立替金処理し出納帳にレシートを添付し家族へ請求している。		
8	15	<b>○運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、事前に連絡して来てもらうのではなく突然来てもらった方がありの俣の姿を見てもらうことができるという姿勢でおり、何か意見があれば出してもらうようにしている。また、不満や苦情については、市や国民健康保健連合会の苦情・相談窓口の案内をしている。		
9	18	<b>○職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動の場合は、入居者の立場を第一に考えて行っている。新規採用者は、最初は入居者の直接介護を行わず、入居者の行動観察や言葉かけなどの接遇について管理者やベテラン職員からの指導等を受けてから介護業務に従事するよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<b>○職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用者の場合は、日常の介護業務の中で研修期間を設け、接遇やターミナルの際の心構え等について管理者が指導をしている。外部研修は、個人参加とし、研修案内等を供覧し、希望がある場合は時間的な配慮を行うよう努めている。	○	法人内外の研修を受ける機会を計画的に立て、職員の資質向上を図られるよう期待する。
11	20	<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に加入し、同業者間の交流等は事務局職員が行い、ホーム職員としては大会や研修会等には参加していない。	○	同業者との交流や研修等を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に見学してもらい、入居者と一緒に食事をしたり、お茶を飲んだり、時にはドライブに行きホームの雰囲気に馴染んでもらうよう努めている。希望者には宿泊体験も出来る体制にある。また、見学に来ない人にはこちらから出向いて話し合い、生活歴を把握して介護をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で教えてもらうことも多く、特に食事に関しては、食材などの買い物や調理、配膳・下膳等を職員と共に行っている。また、時には何度も繰り返す昔話を根気よく聞く等、支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を聞いたり、意思表示の出来ない人には、家族から情報を得てその人らしい生活が送れるよう援助している。漁師をしていた人が海をみたいと言えば、ドライブで港や水族館に出かけたり、温泉の好きな人には草津温泉や四万温泉出かける等一人ひとりの思いや希望に沿った介護を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の生活歴や希望を聞き、アセスメントシートやモニタリング用紙を活用して職員で話し合い介護計画を作成している。介護計画のコピーを家族に渡して説明し、署名をもらっている。家族の居ない人には、成年後見制度による後見人に渡している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングやアセスメントシート・申し送りノートの記録に基づき、6ヶ月毎にスタッフ会議で検討し見直しを行っている。見直しを行った介護計画を家族に説明して、署名・捺印をもらっている。	○	日々のサービスの中で見直しにつながるような状況がある場合には、柔軟に対応することを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの協力医への通院は職員が送迎している。理美容院へは、車いす使用者も職員が送迎している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、本人や家族の希望するかかりつけ医や専門病院への通院状況を聴き、家族に送迎するようお願いしている。なお、協力医の受診を希望する入居者は、職員が送迎している。受診結果は家族と情報交換している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、早期に主治医より家族に説明をし、家族の希望を取り入れながら看取りに向けケアを行っている。家族の宿泊も可能である。マニュアルはないがスタッフ会議で方針を共有し、主治医、家族との連携を取りながら全員で方針を共有出来るよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	採用時に個人情報の取り扱いを説明し、入居者に対する接遇について指導している。個人情報はロッカーに保管し、外部へ持ち出さないこととしている。言葉かけについては日頃から入居者を軽んずるような言葉かけをしないよう指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活歴から出来ること出来ないことを把握し、本人の希望に合わせ無理強いすること無く、入浴や食事等本人のペースで過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や下膳、お茶入れ等をはじめ食事も職員と一緒にやっている。介助の必要な入居者についても、急がせることなく本人のペースに合わせた食事介助をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は特に設定せず、一人で入浴出来る人は毎日朝から晩までいつでも入浴出来る体制をとっている。入浴を嫌がる人には、声かけをして、会話をしながら入浴するよう誘導している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は、食事の準備や洗濯をしたり、新聞をもとにその日の話題を提供したり、折り紙を教えてもらうなどして、張り合いのある生活を過ごしている。また、入居者の残存機能を重視した場面づくりを心がけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に、神社等へ散歩をしている。また、衣類や食材の買い物や今日はどこに行きたいかを聞いたり、新聞の一面の写真を見て、貫前神社、赤堀の菖蒲園等入居者の希望に沿った外出も心がけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設当初より「いかなる場合においても身体拘束・虐待は行わない」方針を管理者をはじめ職員一同に徹底しており、玄関や廊下からも自由に入出入り出来る状態となっている。夜間においても外出する入居者がいる時は見守りを重視し、束縛することのない支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の避難訓練を実施している。緊急連絡網を掲示し、防災マニュアルを作成している。しかし、消防署との連携した訓練はされておらず、近隣への声かけがされていない。	○	消防署の指導による避難訓練や地域の人達の協力が得られるような働きかけを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々の食事摂取量や水分量を、職員はチェックシートに記載し管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は、築100年以上経過した養蚕農家であるため段差等があるが、職員の指導の下、これを利用してリハビリに活用している。広い和室には古い茶箆箆やコタツが置かれ、家庭的な雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	養蚕農家を利用しているため各居室は十分な広さがあり、桐のダンスやベッド、カラオケセット・テレビ・三面鏡等が持ち込まれ、居心地良く毎日が送れるよう配慮されている。		